

イーハトーブ短歌の風

県内高校生の作品から

吉田史子選

先日、第16回全国高校生短歌大会（短歌甲子園）がオンラインで行われた。画面越しにであるが真摯な作歌態度と情熱に触れ、感動が大きかった。部活動での積み重ねが作品となって花開くのはこの学校でも同じ。楽しんで作り続けよう。

1首目は、まだ残暑が感じられる9月下旬にぴったりの照井さんの作品。初句から一気に読み下す時のスピード感と下の句の「待たせてごめんね今から飲むよ」の口語体が大らかな特徴。天然水が相棒のような距離感で詠まれていて爽やかである。「夏」「暑い」などの言葉を使わずにそれを

暑さの名残とどめる



（次回は山田で、10月14日から15日に掲載します）

高校生の短歌作品と題をイメージした写真を紹介します。

◇ ◇
（県歌人クラブ副会長）

他に「さらさら」と乾く心に流れ出す隠し切れない思いと共に・1年戸塚帆ノ夏にも心がひかれた。何が流れ出すのかはつきりしないのが惜しまれる。言い過ぎても言い過ぎなくてもよい作品にはならない。できたとしたら第三者の目で読み返してみよう。

2首目、こちらも猛暑の名残を感じさせる佐々木さんの作品。高校生になると女子ローファーを履くことに慣れるのが魅力である。説明し過ぎていないところがよい。

3首目は通学の時に履く靴ローファーを詠んだ佐藤さんの作品。高校生になると女子ローファーを履くことに慣れるのが魅力である。説明し過ぎていないところがよい。淡い悲しみが伝わってくる。一首の中に時間が描かれているのが魅力である。説明し過ぎていないところがよい。

題「水」

第71回 盛岡 二

キンキンに冷やしておいた天然水待たせてごめんね今から飲むよ
2年 照井 真悠

暑い日の冷たさ欲す喉の奥コップの中は温水プール
1年 佐々木 椿

ローファーがはじく雨水ながぐつを最後に履いたのはいつだったか
2年 佐藤 愛莉

作品。「喉かわいたー。冷たいのほしいー」という声が聞こえてくるよう。それで水道の水をコップに注いで飲むと生ぬるい。まるで温水プールに全身浸かったようだ。冷たいのを求めていたから余計に暑さが増しただろう。臨場感にあふれた一首に仕上がった。

この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。

（岩手日報）